

## 令和5年度事業報告

### 事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている3施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「子どもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」等を展開した。

また、基本的な感染症対策を行ったうえでの利用者受け入れと事業実施により、前年度に比べ利用者、事業参加者とも大幅な増となった。

### 職員の状況

施設名	区分	5年度	4年度	増減
青少年協会	常勤役員	1	1	0
青少年センター	協会常勤職員	6	8	△2
	契約職員	4	6	△2
	計	10	15	△5
愛宕山こどもの国	協会常勤職員	6	6	0
	契約職員	3	4	△1
	計	9	10	△1
八ヶ岳少年自然の家	協会常勤職員	6	6	0
	契約職員	4	4	0
	計	10	10	0
合計	常勤役員	1	1	0
	協会常勤職員	18	20	△2
	契約職員	11	14	△3
	計	30	35	△5

## 事業実施状況

### I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会等の諸会議を開催し事業を推進した。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努めた。

### 理事会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第1回	令和5年 4月24日 (決議の省略)	1 令和5年度第1回評議員会開催の件
第2回	令和5年 6月 2日	1 令和4年度事業報告の件 2 令和4年度収支決算の件 3 育児休業等に関する規程改正の件 4 処務規程改正の件 5 財務規程改正の件 6 令和5年度定時評議員会開催の件
第3回	令和5年 6月22日 (決議の省略)	1 代表理事(理事長)選定の件 2 専務理事(業務執行理事)選定の件
第4回	令和5年 7月 1日 (決議の省略)	1 相談役の選任の件 2 令和5年度第3回評議員会開催の件
第5回	令和6年 3月11日	1 令和6年度事業計画の件 2 令和6年度収支予算の件 3 役員賠償責任保険加入の件 4 令和5年度第4回評議員会開催の件
第6回	令和6年 3月23日 (決議の省略)	1 令和5年度第5回評議員会開催の件

### 評議員会決議事項

回数	開催年月日	決議事項
第1回	令和5年 5月 1日 (決議の省略)	1 理事補充選任の件 2 評議員の補充選任の件
定時	令和5年 6月22日	1 評議員選任の件 2 令和4年度収支決算の件 3 定款変更の件 4 理事・監事の選任の件
第3回	令和5年 7月 1日 (決議の省略)	1 評議員補充選任の件
第4回	令和6年 3月19日	1 令和6年度事業計画の件 2 令和6年度収支予算の件 3 公益財団法人山梨県青少年協会役員等の報酬並びに費用弁償に関する規程改正の件
第5回	令和6年 3月27日 (決議の省略)	1 理事補充選任の件

## Ⅱ 公益目的事業会計 施設管理運営

### 施設利用状況

施設名	5年度 (人)	4年度 (人)	前年度対比
青少年センター	93,952	109,978	※△16,026 (△14.6%)
愛宕山こどもの国	296,030	159,636	136,394 (185.4%)
八ヶ岳少年自然の家	37,803	28,857	8,946 ( 31.0%)
合計	427,785	298,471	124,654 ( 43.3%)

※令和5年度から施設の集約化のため、利用人数が減少した。

### 主催事業及び自主事業集計表

施設名	5年度 (人)	4年度 (人)	増減
	実施事業数(予定)	実施事業数(予定)	事業数(件)
	参加者数(人)	参加者数(人)	参加者数(人)
青少年センター	34(36)	35(37)	△1(△1)
	6,075	5,623	452 (8.0%)
愛宕山こどもの国	22(22)	20(20)	2(2)
	49,095	11,559	37,524 (324.6%)
八ヶ岳少年自然の家	31(31)	22(23)	9(8)
	7,416	7,331	85 (1.2%)
合計	87(89)	77(80)	10(9)
	62,586	24,513	38,073 (155.3%)

## 1 県立青少年センター管理運営事業

青少年センターの設置目的である「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年育成を図ること」を達成するために、利用者にとって快適な利用環境を常に保てるような施設管理・運営を行った。

また、リニューアルオープンした新本館の機能を活かした円滑な利用ができるよう、親切、丁寧な対応に努め、新たな利用者の定着を図るとともに、主催事業自主事業の実施により利用促進に取り組んだ。

施設利用者 93,952 人(前年度 109,978 人)

※令和5年度から施設の集約化のため、利用人数が減少した。

### (1) 快適な利用環境を整備し、利用者サービスを向上

安全で快適な活動、研修、交流の場を提供するため、毎日の巡回点検を基本に、週1回の環境整備、休館日を利用しての一斉点検・整備、専門業者によるメンテナンスを実施した。

### (2) 積極的な広報活動

従来から活用しているホームページの更新や SNS のツイッターに加え、新たに LINE を導入し、身近な情報発信と各種イベント情報の周知に努めた。

### (3) 主催・自主事業の充実

健全な青少年の育成を図るため「各種のスポーツ教室事業」、「様々な体験活動を行える事業」、「相談支援事業」、「青少年育成山梨県民会議」事業など、時代に即した課題や魅力あるテーマにより実施した。

## 青少年センター主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
若者相談室(コンサルテーション・ビューロー)事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを聞き、その悩みを解消するため、必要に応じて専門機関への橋渡し等の支援を行った。	通年	322
施設利用促進事業	マスコミなどへの施設・イベント情報の掲載や、ホームページの充実、SNSでは LINE を新たに導入し、青少年センターの周知を行い、新規利用者の確保と定着を図った。	通年 随時	
青少年センターボランティア推進事業	青少年センターが主催する各種事業にボランティアとして参加してもらい、子どもたちの活動の支援やリーダーとして活躍してもらった。	通年 随時	21
地域交流事業	必要な時に助けを求められるよう、防犯をテーマに親子で楽しくリズム体操をしながら声の出し方や体の動きを学んだ。	3月	20
居場所づくり	リニューアル後、スペースの確保が困難となり実施に至らなかった。	中止	
レクリエーションインストラクター養成講座	地域や職場で社会活動や奉仕活動を行うにあたり、レクリエーションインストラクターとして実践していくための知識や技術を学んだ。	6月～2月 9回+補講1回	24
おやこで運動塾 ～器械体操～	子どもやその保護者が楽しみながら運動技能の習得や継続的な運動習慣の定着を目指し、専門の指導者から、器械運動の回転や倒立、鉄棒運動などの基礎的な動作を学んだ。	11月、2月 2回	40

おやこで運動塾 ～かけっこ～	専門の指導者から、かけっこにおける脚の上げ方、腕の振り方などを学んだ。また、親子で運動技能を習得することで、継続的な運動習慣の定着を目指した。	10月、3月 2回	70
センターまつり	各種体験会、発表会、出店等による(文化)祭を実施し、地域に根差した施設を目指した。同時に文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい1日を提供した。	3月 1回	1,200
作って！ ねらって！撃て！ 水鉄砲スナイパー	水鉄砲づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、技巧性を養いながら自分が作成したものに愛着を持ち、大切に作る心を育てた。また、水鉄砲遊びを通して、グループ対抗で元気に走り回ったり、遊んだりする機会を提供した。	7月 1回	31
めざせ！ 法律マスター ～模擬裁判を やってみよう！～	模擬裁判を通して、ルール作りや法律などを理解し討論する中で、論理的思考力・コミュニケーション技術を身につけ、健全な青少年の育成に寄与した。	11月 1回	22
Let'sトライ！ タグラグビー！	タックルなどの身体接触プレーがなく、安全に楽しめるタグラグビーを通じて、体を動かす楽しさ、互いを尊重すること、チームスポーツの楽しさを学んだ。	1月 1回	9
フライングディスクを やってみよう！	本格的なフライングディスク競技の体験を通して、学校以外の仲間づくりや親子での活動の中で親子の触れ合いの場を提供することにより余暇の充実を図った。	10月 1回	10
ちぎって！はって！ 親子でちぎり絵	ちぎり絵作りを通して、もの作りの楽しさを体験し、創造性を育んだ。また親子での創作活動だったため、親子間のコミュニケーションの促進につながった。	11月 1回	26
知ろう！ やってみよう！ みんなで パラスポーツ	障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しむことで、パラスポーツを知り、障がいの理解や仲間作りを通して障がいのある人の社会参加を推進することを目的とした山梨県主催、山梨県障害者福祉協会主管で開催する「パラスポーツやってみるじゃんフェスティバル」を誘致し、共生社会の実現を目指すきっかけとした。	10月 1回	201

青少年センター自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
青少年・青少年育成功労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	随時	6
白ポスト事業	青少年にとって有害な図書等の回収のため、JR 駅等に設置した白ポストの維持管理を行った。	通年 随時	
山梨県児童館連絡協議会(共催:愛宕山こどもの国)	会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を図った。	通年	59

児童健全育成推進財団事業(共催:愛宕山こどもの国)	児童館・放課後児童クラブの機能と活動内容について理解を深め、子どもたちの遊びや生活を通じた発達支援に直接的にかかわる児童厚生員の資質や意識の向上を図った。	6月1回 7月1回 9月2回	80
放課後児童支援員認定資格研修事業(共催:愛宕山こどもの国)	放課後児童支援員として必要な「基本的な生活習慣の習得の援助」、「自立に向けた支援家庭と連携した生活支援等に必要な知識・技能」を習得する研修会を開催した。	9月2回 10月4回	533
各種機関連携事業(共催:協会3施設)	各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働実施により、効果的な青少年健全育成事業を行った。	通年 随時	2,841
学習スペース提供事業	自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場を提供する予定であったが、リニューアル後、場所の確保に難航し、積極的な周知を行えず提供に至らなかった。	通年 随時	0
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催:協会3施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。(青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	6月から1月(長期休暇を含む)全13回	308
備品貸し出しサービス	スポーツ用具を持参しない利用者に有料で用具を貸し出し、その収入を必要備品のメンテナンスと更新(購入)に充てることで、備品の状態・数量を常に良好に保ち、利用者の利便を図った。	通年 随時	
利用者支援サービス	本館、リバーズ和戸館の窓口にてコピーサービスを提供し、利用者の利便性の向上を図った。	通年 随時	
グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの愛好者に活動の場を提供するとともに、参加者同士の親睦を深め、仲間づくりを進めた。またグラウンド・ゴルフの普及振興を図り、健康づくりに寄与した。	10月、3月 2回	93
甲斐児わいわい紀行2023	自然体験や集団宿泊経験の少ない児童が、様々な体験活動を通し、仲間と遊び、協力していく中で、自分に自信をもって活動できる子どもを育てる。自然の良さ、厳しさを体感し、自然への関心を高めた。	8月 (2泊3日) 1回	8

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業)

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	「あいさつ・声かけ運動」を全県的に展開するため、各市町村への働きかけと、街頭キャンペーンを実施し、「あいさつ・声かけ運動」を推進した。	通年 随時	
中高生のネット・ワークショップ	参加者が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマにクイズ形式で学び、意見交換や討論を行い、インターネットの適切な使い方について理解を深めた。	7月 1回	11

「家庭の日」「青少年を育む日」推進運動事業	「大人が変われば子どもも変わる」をテーマに、大人自身の姿勢や大人社会のあり方を省みるきっかけとなる啓発事業を行った。また、「家庭の日」「青少年を育む日」をテーマとした啓発ポスターを募集しカレンダーを作成した。	通年 随時	53
青少年関係 NPO 法人等ネットワーク事業	関係諸団体をつなぐ「ツール」としてツイッターやフェイスブックなどの SNS の活用に加え、新設したメーリングリストを活用し、青少年育成関係団体等における情報の共有化を図るとともに、実施事業、ボランティア情報、各青少年団体から寄せられた情報等を広く県民に発信した。	通年 随時	/
子ども・若者支援フォーラム「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」TSU・NA・GU～家庭・学校・地域・行政の連携で希望ある未来をつくろう～をメインテーマに子ども・若者支援フォーラムを実施した。	2月 1回	25
管理運営(3事業)	県民会議事務局の運営及び事業の円滑な実施を図るため、ホームページによる情報提供や事務局の管理運営等を行った。	通年 随時	/
少年の主張山梨県大会	県内の中学生に、広い視野と柔軟な発想や創造性などを育むきっかけとするとともに、物事を理論的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらおう力を身につける機会とした。	8月県大会	62

## 2 県立愛宕山こどもの国理運営事業

甲府駅から近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めるとともに、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら、施設を利用するすべての方が快適に利用できるための環境づくりに努めた。

こどもの国 施設利用者 296,030 人(前年度 159,636 人)

### 運営方針及び具体的な管理運営

#### (1) 利用者が安心して、快適に利用するための環境整備と施設管理

毎日行う、朝、夕の定時巡回では、危険箇所の早期発見に努め、危険箇所が見つければ、職員が対応するものと専門業者に依頼して対応するものとに区分して、迅速な施設保守を行い、遊歩道沿いの倒木撤去や植物の保護に努めることで、人が入ることができる里山の環境整備を行った。

また、活動プログラムを行うエリアの実施前点検と活動中の巡回を徹底することで、安心安全な施設運営に努めるとともに、新規プログラムの開発を進めることで利用満足度の増加を図った。

さらに、多くの人出が予想される休日やイベント開催時には、利用者が安全に活動できるように職員を適正に配置するとともに、アルバイトを配置することで安全に配慮した運営を行った。

#### (2) 地域の団体やボランティアとの連携協働

県内の大学に通う学生ボランティアには、子ども対象事業の補助スタッフとして、子ども達の見守りと体験活動のサポートをしていただき、地元の奉仕団体には、園内の落ち葉やごみ拾いなどの環境整備作業にご協力いただくなど、地域やボランティアとの協働を図った。

#### (3) 積極的な広報活動

各種のイベントを開催するにあたっては、県内の保育所や小学校などの参加対象年齢に合わせてイベント募集チラシを送付するとともに、ホームページやSNSを活用した広報活動を行った。

また、キャンプ場の空き状況や、駐車場の混雑状況など、日々変化する情報についてもホームページを使って随時、情報を発信した。

#### (4) 主催事業の充実

豊かな自然環境を生かした体験活動や施設の特色を生かした野外活動を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、幼児とその保護者を対象とした子育て応援事業や世代間交流を図る事業などを実施することで、子どもの成長に応じた切れ目のない支援に重点を置いて各種事業を企画し、実施した。

### 愛宕山こどもの国主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
あたごやま自然観察会(春・夏・秋・冬)	親子で自然に触れ合うことで、野生動物・植物に見られる多様性を知り、自然環境に対する意識の向上を目指す機会とした。 〈春〉里山の春のお花と生きものたちかんさつ会 〈夏〉おどろきと発見！夜のいきもの 〈秋〉秋の里山どんないきものがいるのかな？ 〈冬〉冬の里山にどんないきものがいるのかな？	〈春〉4月1回 〈夏〉7月1回 〈秋〉9月1回 〈冬〉2月1回	101
愛宕山こどもフェスティバル	ゴールデンウィークに工作や遊びなどの体験をとおして、こどもの情操を育むと共に、家族の絆を深める機会とした。 ・クラフトコーナーやゲームコーナー等のボランティア団体の出店、キッチンカーの出店、和太鼓の演奏、スタンプラリー他	5月 5日間 1回	40,051



<p>親子で出発！ わくわく里山 たんけん！ (子育て応援事業)</p>	<p>親子で五感を使ってその季節ならではの自然を感じ、新しい発見をする機会とした。親子で楽しむことができるネイチャーゲームや木の实を使ったクラフトなど、その季節の自然を感じながら、家族間で交流する機会を提供した。 〈春〉ノーズ、森の宝さがし、 ゲーム水路の観察等 〈秋〉ノーズ、森のビンゴ、 落ち葉スタンプのバックづくり等</p>	<p>5月1回 10月1回</p>	<p>55</p>
<p>ほっこりふわふわ CARINO デイ (子育て応援事業)</p>	<p>低年齢期の子ども達が保幼小接続期の「遊び」から「学びへ向かう姿勢」を育むとともに、保護者には親同士の情報交換や学校生活での実際について知る機会とした。 ・親子で自然を感じよう！ (ノーズ、フィールドパターン) ・子ども：自然を知ろう！学ぼう！ (虫ムシあつまれ！) ・保護者：子育て座談会 ～小学校教諭に聞く はじめての”学び”への準備～ 講師：やまなし幼児教育センター 山下春美 先生、永田恵子 先生</p>	<p>6月 1回</p>	<p>40</p>
<p>家族で楽しむアウトドア ～自然は 最高の調味料～</p>	<p>愛宕山の自然の中で、家族で野外炊事を通して、自然体験活動の楽しさを知る機会とした。今回はメスティンを使った、初心者向けの調理を紹介した。また、自然木を利用した焚火を用意し、家族でゆったりとした時間を過ごせる機会を提供した。 ・簡単メスティンの使い方 (ローストビーフ/鮭ご飯/ベーコンチーズ) ・焚火であそぼ！</p>	<p>9月 1回</p>	<p>40</p>
<p>幼児向け自然体験活動 指導者研修会</p>	<p>指導者が幼児期における自然体験活動の意義や各種提供プログラムのねらい、安全管理の考え方について実践的に学ぶことができる機会を提供した。今回はぐうたら村共同代表の小西貴士 氏を招き、開地保育園・清里聖ヨハネ保育園の事例からゼミ形式で研修会を実施した。</p>	<p>10月 1回</p>	<p>19</p>
<p>落葉焚きで焼き芋</p>	<p>園内の落ち葉を集めてもらい、サツマイモを焼く体験を通して、火の暖かさや煙の匂いを感じ、家族団欒の時間を過ごしてもらうとともに、参加者同士の交流を図る機会を提供した。</p>	<p>11月 2回</p>	<p>91</p>
<p>蔓(つる)取物語 ～里山を守って リースをつくらう～</p>	<p>愛宕山の整備として、採取したツルを利用して、木の实などを飾りつけたリースを作成した。森林の光環境等を改善させ、持続的な恵の獲得に繋がっていくという里山の循環の仕組みを学ぶ機会を提供した。 ・蔓が樹木に与える影響について説明 ・周辺散策、観察、蔓や木の实の採集 ・オリジナルリース作りづくり</p>	<p>12月 1回</p>	<p>37</p>

つくってみるじゃん正月飾り ～世代を超えて 伝えたい～ (異世代交流事業)	正月飾りを家族で協力して作成した。伝統や風習を知るとともに、様々な世代の人々の交流を深める機会を提供した。 ・護国神社禰宜羽中田氏による正月飾りの由来についてのお話 ・足踏み式人力脱穀機体験 ・しめ飾りづくり (護国神社 禰宜 羽中田康司 氏、甲府遺族連合会の皆様)	12月 1回	30
職場体験・インターンシップ受入事業	教育事業や研修支援などの業務を体験することで、早い段階から将来への明確な目標を構築する支援として、山梨大学と山梨学院大学の学生6名を受け入れ、こどもの国の日常業務や、主催事業の業務を体験する機会を提供した。	8月～9月 計20日間	6
自然保育サポート事業	希望した幼稚園や保育園に対し、こどもの国の豊かな自然環境を活かした幼児期の自然体験活動の支援を行い、「生きる力」を育む機会を提供した。	通年 計32日 34回	1,376
愛宕山ボランティアバンク	愛宕山を利用する子供たちの活動をサポートしていただける方々や園内の清掃、整備をしてくれる方、団体を幅広く募集し、豊かな経験や知識、趣味をもった県民の方々をボランティアバンクに登録し、支援してもらおうとともに、活動の場を提供した。	通年 随時	230
レスパイトケア事業 (子育て応援事業)	子育て中の保護者が一時的に育児から解放され、心身を休めてリフレッシュしてもらうための支援を提供する。今回はほっこりふわふわCARINOデイ参加者の乳幼児についてイベント開催中に保育士による託児を行った。	6月 1回	5
広報事業	施設利用者の増加を図るため、県内の幼稚園・保育園、小学校へチラシの送付、新聞や雑誌への広告掲載、SNS等の様々な媒体による施設のPRやイベントの情報発信を広域的に行なった。	通年 随時	

愛宕山こどもの国自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
あたごやま 親子陶芸教室	陶芸初心者の親子や一般の方を対象に、基本的な陶芸の知識や技術を身につけながら、作る楽しさや喜びを感じてもらった。今年度から新しくなったこどもの国管理研修棟の工作室で実施した。陶芸教室は相変わらず人気が高く、3回とも定員を大幅に上回る申込があった。	11月～3月 成形3回 釉薬付け3回	182
愛宕山で初日の出を見よう!	元旦にこどもの国ゲートを開放し、富士山を正面に甲府盆地を一望できる愛宕山こどもの国を県民に知ってもらう機会とした。午前6時に開園をして展望テラスで初日の出を見る機会を提供した。	1月 1回	769

<p>あたごやまイベント フィールド 365</p>	<p>感動体験を提供することで、心に残る家族の思い出づくりの機会とした。4月には自然の家屋上、3月には管理研修棟前にてミニセグウェイ体験を提供した。また、管理研修棟前ではコマ回しやけん玉、輪投げなど昔あそび体験、遊歩道ではチョークでお絵描きコーナー、ライオンの池では幼児用手漕ぎボートパワーパドラー体験を提供した。</p>	<p>通年</p>	<p>5,346</p>
<p>里山再生事業</p>	<p>甲府の里山として親しまれて来た愛宕山の園内遊歩道を中心に整備を行った。園内で飼育した蜜蜂の巣で取ったハチミツを販売した。また、園内の倒木を炊事用の薪として、利用者に提供した。</p>	<p>通年 随時</p>	<p></p>
<p>利用支援事業</p>	<p>こどもの国をより魅力あるにぎわい空間とするため、利用者の利便性や快適性を高めるため、キッチンカーによる飲食店の出店や、こどもの国での活動プログラム(クラフト、自然体験プログラム)を提供した。</p>	<p>通年</p>	<p>45</p>
<p>山梨県児童館連絡協議会(共催:青少年センター)</p>	<p>会員相互の連絡提携により、児童館運営の充実を図り、児童の健全育成を図った。また、会員の資質向上を図るために特別研修会や先進地視察研修、ブロック別研修会等を実施した。</p>	<p>通年</p>	<p>59</p>
<p>児童健全育成推進財団事業(共催:青少年センター)</p>	<p>児童館・放課後児童クラブの機能と活動内容について理解を深め、子どもたちの遊びや生活を通じた発達支援に直接的にかかわる児童厚生員の資質や意識の向上を図った。</p>	<p>6月1回 7月1回 9月2回</p>	<p>80</p>
<p>放課後児童支援員認定資格研修事業(共催:青少年センター)</p>	<p>放課後児童支援員として必要な「基本的な生活習慣の習得の援助」、「自立に向けた支援家庭と連携した生活支援等に必要な知識・技能」を習得することを目的とした。</p>	<p>9月2回 10月4回</p>	<p>533</p>

### 3 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、利用者が安心して活動ができる事を業務目標の中心として施設運営を行った。

また、リニューアルしたプラネタリウムを積極的に活用し、利用者満足度の向上と利用者増に努めた。

施設利用者 37,803 人（前年度 28,857 人）

#### (1) 利用者の安心・安全の確保

- ① 職員による毎日の巡回業務および月一回の施設点検により、利用者が安心・安全に活動できる環境づくりに努めた。
- ② 「樹木の立ち枯れ」や「倒木」については、早急に撤去作業を行なった。

#### (2) 広報活動の充実強化

- ① 自然の家のイベントチラシを年間 3 回、県内の保育園・幼稚園、小学校、関係機関に送付し、自然の家の事業について広く周知を図った。
- ② スポーツ少年団を対象とした利用促進のチラシを作成し、関係団体を通して周知を行った。
- ③ 利用者に必要な情報を分かり易くホームページに掲載し、定期的に更新を行った。  
また、Twitter や Instagram などの SNS を活用し、リアルタイムな自然の家の情報を発信するとともに、事業について広く周知を図った。

#### (3) 主催・自主事業の充実

- ① 施設の設置目的を重視し、自然環境に恵まれた施設の特性を活かし、参加者の安心・安全を確保のうえ、主催・自主事業を年間31事業実施した。
- ② 山梨県立大学や、公益財団法人キープ協会などの各種機関と連携を図りながら、魅力的かつ満足度の高い事業を実施した。

### 八ヶ岳少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
ほくほく焼きいも体験 ～焚き火を使って作 ってみよう～	家庭では体験することが少なくなった秋の風物詩を体験し、身近な人や初めて会う人と季節の自然を感じ、普段できない体験をすることから、新たな自然の楽しみを味わう機会となった。	10 月 (日帰り) 1 回	118
クリスマスキャンプ	初めて会う仲間と、クリスマスという親しみのあるイベントをテーマとした特別な体験を通じて、自身の協調性や共感性を育むとともに、他者と楽しみを分かち合う喜びを味わう機会となった。	12 月 (1泊2日) 1 回	31
月見里(やまなし) 観望会	星の美しい清里地区を舞台に家族で星空を見ながらコミュニケーションのきっかけとしてもろうとともに、誰もが知っている天体である月の動きを知ることで、天体に興味を持つ機会となった。	3 月 (1泊2日) 1 回	60
きよさとさんぽ ～朝の鳥たちの 声を聴こう～	朝の清々しい自然の中を家族で楽しみながら歩くことで、新たな発見を共有しながらコミュニケーションをとる機会としてもらった。また、鳥たちの声を聞きながら自然を楽しむことから、普段とは異なる自然に触れ、自然に興味を持つ機会を提供した。	3 月 (1泊2日) 1 回	33

利用促進事業	利用者の増加を図るため、学校等への利用案内やイベントチラシの送付を行うとともに、新聞・雑誌での情報発信、ホームページの充実・SNS等の様々な媒体を通じて施設のPRに努めた。	通年 随時	
八ヶ岳利用者研修会	当自然の家の利用を予定している団体引率者が、集団宿泊活動や野外活動の意義を理解し、活動プログラムを組み立てる上で必要な指導知識や技術の習得を図った。	4月 (日帰り) 2回	95
春を探しに清里へ ～GWを楽しもう～	ゴールデンウィーク中に、家族で自然の家に宿泊し活動プログラムを体験してもらうことで自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図った。	5月3日～5日 (1泊2日または 2泊3日) 1回	62
ファーストステップ キャンプ ～意外と簡単? 家族でキャンプ デビュー～	キャンプをしてみたいが経験がない、または道具がない等、キャンプをはじめの一歩が踏み出せないという家族を対象に野外活動の知識や技術を楽しみながら習得するとともに、家族で協力してキャンプ生活を送ることで、家族間のコミュニケーションを深め、より良い家族関係を構築する機会となった。	7月 (1泊2日)	55
地域環境美化事業	地域住民と連携し、自然の家の玄関口ともいえる通称「牧場通り」を中心に、自然の家周辺の環境美化に努めた。	7/24 及び5、6、7、10 月(日帰り) 7回	30
バンビキャンプ	親子で別々のプログラムを体験する時間を設けることで、子どもは、新しい仲間との集団生活から「自立心」「協調性」「冒険心」を養い、保護者は我が子の新たな一面や成長を認識するとともに、子育ての経験や悩みを共有し、今後の親子の関わり方について考えるきっかけとした。	9月 (1泊2日) 1回	37
地域交流事業	清里地域周辺の住民に施設を開放し、当少年自然の家への理解と利用促進を図るとともに、自然の家職員と地域住民とで信頼関係を築き協力体制を構築する機会とした。	9月 (日帰り) 1回	1,008
ワク!ホク! オクトーバーキャンプ	小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験を行うことにより、自分に自信をつけ、協調性や社会性を育むきっかけにするとともに、外遊びなどの運動をすることで身体能力の向上を目指した。	10月 (1泊2日) 1回	37
フォレストキャンプ ～五感を磨く 1泊2日～	デジタル機器に触れる機会が増加することにより、様々な体験活動をする機会が減少し、人と人とのコミュニケーションにも変化が生じていることを踏まえ、集団宿泊体験を通して子ども同士のコミュニケーションを増やし、五感を使って、自然への関心を高める機会とした。また、山梨県立大学の学生がプログラムを実施し、子どもたちと直接触れ合うことで、学生に生きた体験の場を提供した。	10月 (1泊2日) 1回	36
ファミリーキャンプ	家族で楽しみながら、ゆったりとした時間の中で活動を行うことで、自然を感じ、日頃の疲れを癒すとともに、家族のコミュニケーションを図った。	11月 (1泊2日) 1回	71

利用者との 意見交換会	八ヶ岳少年自然の家を利用した団体の代表者に「当施設をお使いいただける理由」や「自然の家に求めること」といったテーマで意見交換する機会を設け、今後の自然の家のあり方などについて検討した。	11月 (日帰り) 1回	5
八ヶ岳星空観望会	光害が少ない清里高原の星空観望を通じて、星座や星空に親しみ、自然に対する興味や関心を高める機会を提供した。	11月 12月 (日帰り) 2回	67
八ヶ岳星空 ライブ配信	インターネットでのライブ中継を通じて、八ヶ岳エリアの美しい星空の魅力を発信することにより、普段なかなか施設に来られない方にも、自然に親しんでいただく機会を提供する予定であったが、曇天のため2回とも配信できなかった。	8月 12月 (配信) 2回	
自然の家に泊まろう ～Win・win ウインター～	閑散期における利用率向上を図ることを目的に、家族で自然の家に宿泊し活動プログラムを体験してもらうことで、自然の家への理解を深めつつ、家族の交流や心身のリフレッシュを図る機会を提供した。	1月、2月 (1泊2日または 2泊3日) 2回	124
ボコボコ登ろう ボルダリング	寒い季節の運動不足解消に冬でも楽しく体を使うことができるボルダリングをすることで、運動することの楽しみや、爽快感を感じてもらおうと共にチャレンジ精神を育んだ。	1月、2月 2回 (日帰り)	36
八ヶ岳少年自然の家の 思い出を描く作品展	雄大な八ヶ岳高原の大自然の中で活動した思い出を、子どもたちが自由に絵画で表現することにより、自然の家や自然環境への興味・関心を一層高めた。	応募期間 5～11月 審査会 12月 表彰式 1月 (日帰り) 定員なし	1,118
KIYOSAT ボランティア隊	指導補助者の方々や施設ボランティアを希望する方々に活躍の場を提供した。また、ボランティアと施設職員が連携して行う活動をとおして、豊かな施設づくりを目指し、さらに清里地区全体の魅力づくりにつなげた。	通年 随時	64

## 八ヶ岳少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
ナイトプログラム支援事業	秋以降の利用促進を図るため、普段は指導を行っていない夜プログラムについて、職員が指導・補助をおこなう体制を作り、利用者の利便性を向上させた。	9月～3月 随時	209
冬を楽しむ アクティビティ	自然の家の持つ環境の特性を活かし、冬の時期でも楽しめるアクティビティを体験することから、様々な季節での自然の家の利用促進を図るとともに、幅広い層への自然の家の認知を高め、今後の利用向上を目指した。	2月 (日帰り) 4回	64
甲斐児わいわい紀行 2023	自然体験や集団宿泊経験の少ない児童が、様々な体験活動を通し、仲間と遊び、協力していく中で、自分に自信をもって活動できる子どもを育てるとともに、自然の良さ、厳しさを体感し、自然への関心を高める機会とした。	8月 (2泊3日) 1回	8
「北杜市放課後子ども教室」 (地域連携事業)	北杜市教育委員会と連携し、北杜市放課後子ども教室として実施する「ほくとワクワク教室」(イベント)に、職員を派遣し、レクリエーションやクラフトの講師として指導した。また、同時に自然の家のPRを行った。	9月～3月の間 5回程度	282
「甲運小学校区放課後子供教室」(共催: 協会3施設)	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	4月から3月(長期休暇を除く)14回 特別開催2回	61
利用者支援サービス	施設利用者を対象に、体験活動に要する資材を提供することで、利用者サービスの向上を図った。	通年 随時	
施設活性化事業	関係団体や近隣住民と共同して施設の活性化を図った。 ・つつじ祭り清里ウォークへの協力	6月 及び 通年 随時	756
外部団体・講師 紹介事業	青少年健全育成活動の分野における専門的知識及び経験を有する方々を講師として登録し、希望があれば各種団体に紹介し、活動プログラムの充実を図る取り組みとした。	通年 随時	
各種機関連携事業 (共催:協会3施設)	各種関係機関と連携することにより、効果的な青少年健全育成事業を行った。各種プログラム提供や他機関事業への職員派遣、事業の協働実施。	通年 随時	2,949
八ヶ岳少年自然の家 開所50周年記念事業	八ヶ岳少年自然の家が開所50周年を迎えることから、これまでの間支えてくださった県民の皆様、当施設の宿泊団体の見守りにご協力いただいた周辺住民の方々へ、感謝の気持ちを伝える機会とした。(主催事業「地域交流事業」と共同開催)	9月 (日帰り) 1回	1,008 ※地域交流 事業と同人数

### Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	実施時期	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売等を行った。	通年	3,965,414
プラネタリウム番組配給事業	オリジナル番組を他館へ配給した。	通年	84,700
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクタ指導による講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を目指した。	通年	390,720